

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 114 号 2007.10.25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

今年も収穫の秋を迎え、各地から喜びの報告が多数寄せられています。今回、それらの中から、今後のさらなる自然農法田の普及を願って、一部地域の稲刈りの様子をご紹介します。

自然の稲に感動！

自然農法普及員 野中康次



10月6日(土)快晴、長野県木島平の堀農園の稲刈りに行ってきました。

9月末から始まった稲刈りも佳境に入り、この日はモチ米を刈り、ハザ掛けをしました。

ここ5年ほどは、毎年木島平を訪れていますが、今年もいいお米が育っていました！

県内に住む宮澤弥生さんと二人のお子さんたちが応援に来ていて、楽しそうにバインダーでの稲刈りに挑戦していました。

収穫したお米は、すべてハザ掛けをして自然乾燥させます。

ハザ掛けとは・・・右の写真のように、稲を束にして穂の部分が下になるよう逆さまにして干すことです。刈った後も太陽をたっぷり浴びて、さらにおいしくなるのです。

堀さんは「今年は最初から青々とした苗ができてよかった。今後も自然農法の原理を正しく実践し、さらに収量アップを目指していきたい」とおっしゃっていました。

私も五三会の田んぼに年間を通して携わってきて、堀さんの苦労をほんの少しだけ体験として感じられました。

稲を刈りながら、堀さんが懸命に草取りをしている姿が思い浮かび、貴重な稲を刈らせてもらえることに感動しました。



お知らせ

< TOREK 自然農法 農産展 >

11月3日(祝) 13:00~16:30

テーマ「現実を知る 生産者の想い」

< TOREK 自然農法 頒布会 >

11月20日(火) 11:00~15:00 鎌ヶ谷会場

< 自然農法 勉強会 >

11月29日(木) 午前の部 10:30~ 午後の部 19:00~ (別院 講堂)

11月3日の販売
予定は、農産展会場
案内をご覧ください



お問い合わせ先: 編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>

みなさまの応援に感謝した1年

新潟県小国町 飯塚伸子

私は、地元にて力添えてくださる山本さん、谷口さんとともに、主人から引き継いだTOREK自然農法での稲作を継続しています。

9月26日に、稲刈りを行いました。コンバインをオペレートした山本さんは、「今年はいいな。田んぼの成りがいい」と言ってくれます。今年は、新潟県において質の良いお米を出荷しようという主旨から、籾摺りの段階でふるいの目を1.85mmから1.90mmに粗くしています。それにより、大きく質の良い粒だけが残ることになるのです。どうも、今年台頭してきた北海道米を意識してのことらしいです。そのような籾摺りを通して、収量が昨年の1.5倍近くになりました。

私は、2枚で約3反の稲作を行なっているのですが、中越地震の後整理でいじった1枚の圃場は、土や砂、石が入り混じっていて、まだ落ち着いていません。だからでしょうか、収量は、今ひとつでした。残りの1枚だけで計れば、かなりの収量アップになったことと思います。

今年は、除草の必要な時期に多くの人々が応援の手をさしのべてくださいました。この結果はそれによることだろうと感謝しています。



起死回生！心をひとつに取り組んだ田んぼ

五三会農園係



9月16日、私たち五三会メンバーは、五三会自然田(千葉県長生郡)の稲刈りを、無事に終えることができました。

思えば今年、スタート前から、いろいろな問題のために行き詰まって、田んぼを続けることすら危うい状態でした。

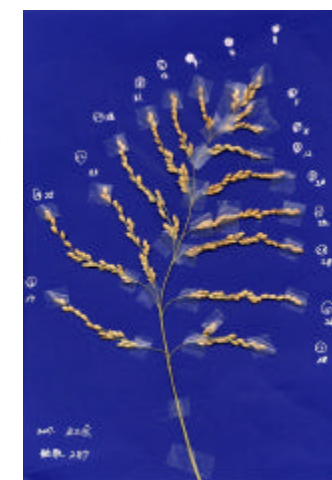
それでも、先輩方の25年も無施肥無農薬を続けてきた、他のどこにもない圃場をなくしてしまっているのか！という強い声によって、どうにか踏み止まり、奮起し、再出発をすることができました。

「土を尊び、愛し、汚さない」の信条はもちろん、「みんなの手で田んぼを作っていく」という原点に立ち帰ろうと、土、稲に直に触れられる、手植え、手除草、手刈りを主に、今年ががんばってきました。その取り組みが通じるのか、田に足を運ぶたびに、大自然の恵みというか、心というか、そういった何か忘れていたものを、感じさせてもらったようで、この経験は、決して忘れることのできない尊いものとなりました。

そして今、実りの秋を笑顔で迎えられたことは、どれだけの感謝だったか、言葉では表現できないほどです。

収量は過去最高には及ばなかったものの、昨年より増収となり、稲の姿も分けつは多く、一つの穂に287粒ものお米が実るといふ五三会ならではの奇跡的結果を頂きました。

「人を生かしちゃう米」とまで言われる五三会のお米を、絶やすことなく明日につなげることができて、本当に良かったと思っています。



一つの穂に287粒のお米が！